

平成 31 年度第 1 回北海道地方独立行政法人評価委員会 議事録

1 開催日時

平成 31 年 4 月 18 日（木）14 時から 14 時 20 分、15 時から 16 時まで

2 開催場所

札幌医科大学基礎医学研究棟 5 階会議室（札幌市中央区南 1 条西 17 丁目）

3 出席者

【出席委員】

安達 陽子	委員	（一般社団法人 中小企業診断協会北海道 常任理事）
安藤 誠悟	委員	（弁理士・弁護士）
庄司 将史	委員	（公認会計士）
鈴木 将史	委員	（国立大学法人 小樽商科大学 教育担当副学長）
玉腰 暁子	委員	（国立大学法人北海道大学大学院 医学研究院教授）
苫米地 司	委員	（学校法人北海道科学大学 理事長）
成田 吉明	委員	（医療法人 湊仁会 手稲湊仁会病院 院長）
古谷 雅代	委員	（株式会社 エクスネット HAL 代表取締役会長）
山本 一枝	委員	（株式会社 ウェザーコック 専務取締役 一般社団法人北海道中小企業家同友会産学官連携研究会 （HOPE）代表代行）

【欠席委員】

乙政 佐吉 委員（国立大学法人 小樽商科大学 商学部 教授）

4 配付資料

- 資料 1 北海道地方独立行政法人評価委員会名簿
- 資料 2-1 北海道公立大学法人札幌医科大学中期目標期間評価実施要領（案）
- 資料 2-2 中期目標期間評価視点（案）
- 資料 2-3 中期目標期間（平成 25 年度～平成 30 年度）及び平成 30 年度業務実績報告書様式（案）
- 資料 3-1 地方独立行政法人北海道立総合研究機構の第 2 期中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務の実績に関する意見の概要
- 資料 3-2 地方独立行政法人北海道立総合研究機構の第 2 期中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務の実績に関する意見
- 資料 3-3 「地方独立行政法人北海道立総合研究機構の第 2 期中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務の実績に関する意見」に係る対比
- 資料 4 平成 31 年度北海道公立大学法人札幌医科大学年度計画

- 資料 5-1 平成 31 年度地方独立行政法人北海道立総合研究機構年度計画
資料 5-2 平成 29 年度業務実績評価を踏まえた変更点等
資料 6 平成 31 年度北海道地方独立行政法人評価委員会審議スケジュール
参考資料 北海道地方独立行政法人評価基本方針

5 議題

- (1) 委員長、副委員長の選任について
(2) 公立大学部会委員、試験研究部会委員の指名について

〔 公立大学部会及び試験研究部会開催のため、評価委員会は一時中断。
再開は各部会終了後。 〕

- (3) 北海道公立大学法人札幌医科大学の中期目標期間評価実施要領について
(4) 地方独立行政法人北海道立総合研究機構の第 2 期中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務の実績に関する意見について
(5) 平成 31 年度北海道公立大学法人札幌医科大学年度計画について
(6) 平成 31 年度地方独立行政法人北海道立総合研究機構年度計画について
(7) 平成 31 年度北海道地方独立行政法人評価委員会審議スケジュールについて
(8) その他

6 議事内容

- (1) 開会
(2) 大学法人室長挨拶
(3) 委員紹介
(4) 事務局職員紹介
(5) 本日の進行説明

議題(1) 委員長、副委員長の選任について

(委員長及び副委員長は評価委員会条例第 5 条第 2 項により委員の互選により選任する。)

- ・出席委員から立候補及び推薦なし。
- ・事務局から提案することについて出席委員に諮る。
- ・出席委員からは「異議なし」。
- ・事務局から、知的財産の専門家である安藤委員を委員長に、大学教育における豊富な経験を持ち、2 期にわたって委員を務めた鈴木委員を副委員長にそれぞれ推薦。
- ・出席委員「異議なし」とのことで安藤委員を委員長に、鈴木委員を副委員長に選任。

議題(2) 公立大学部会委員、試験研究部会委員の指名について

(部会委員の指名は評価委員会条例第7条第2項に基づき、委員長が指名する。)

- ・安藤委員長が、鈴木委員、庄司委員、苫米地委員、成田委員及び古谷委員を公立大学部会委員に、安藤委員、安達委員、乙政委員、玉腰委員、山本委員を試験研究部会に指名。
- ・出席委員からは「異議なし」。

各部会開催のため議事を一旦中断し、各委員には、公立大学部会、試験研究部会に分かれて、14時20分から部会の審議を行い、委員会の再開は各部会終了後とした。

【議事再開】

議事の再開に先立ち、各部会における部会長等が選任されたので報告。

- ・公立大学部会は、部会長に鈴木委員、部会長代理には苫米地委員をそれぞれ選任。
- ・試験研究部会は、部会長に安藤委員、部会長代理には安達委員をそれぞれ選任。

議題(3) 北海道公立大学法人札幌医科大学の中期目標期間評価実施要領について

- ・「北海道公立大学法人札幌医科大学中期目標期間評価実施要領」について、資料2-1、2-2、2-3に基づき事務局から説明。
- ・委員からは意見、質問等なく、決定される。

議題(4) 地方独立行政法人北海道立総合研究機構の第2期中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務の実績に関する意見について

- ・地方独立行政法人北海道立総合研究機構の第2期中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務の実績に関する意見について、資料3-1、3-2、3-3に基づき事務局から説明。
- ・出席委員から次のとおり質問あり。

鈴木副委員長：「概ね良好というのは、五段階の中の真ん中の評価か。」

事務局：「資料3-1、4ページ目に意見の基準があり、これに従って3ページにおける右側の検証や項目別意見を評価しているが、この項目別意見それぞれについて、総合的に勘案して全体意見を述べているものであり、全体意見についての基準は、特に定めていないが、表現としては、真ん中の評価である。」

鈴木副委員長：「その上は、良好ということか。」

事務局：「基準を定めているわけではない。資料3-1、4ページの最下部<項目別意見>というのがある。評価項目を徐々に大きく括って行き、最後に4つの項目でⅣ、Ⅳ、Ⅳ、Ⅱとして

いるが3つについてはⅣの良好である、1つについて達成状況が不十分であるという意見になっており、それらを統合して全体について五段階評価があるわけではない。今回の評価は、良好が4つで、達成状況が不十分であるが1つあり、全てが良好ではないので、全体意見として概ね良好という表現になっている。」

鈴木副委員長：「正式な規準としてはいないが、そういう印象だということか。」

苫米地委員：「このような場合は、「概ね」という表現だと余りにも曖昧な気がする。今、副委員長が言ったように、この点は評価出来て、この辺はこうだと「概ね」ということにまとめないで、もう少し具体的に書かれた方が、次の改善に繋がるのではないか。」

事務局：「資料3-2の1ページ、2(1)の全体意見のところ、「次の4項目に関し意見を付したところⅣとする意見が3項目、Ⅱとする意見が1項目となり」ということが前提で、「総合的に勘案すると、概ね良好であると認められる」という表現を使っているのであって、尚且つ、それぞれ個別の部分については、後ろの方で全てどういう理由でⅡになっているのかを記載している。」

苫米地委員：「資料を全部読まないといけないのではなく、1枚見たら分かるような書き方が、一般的には分かりやすいのではないかと思う。」

事務局：「全体が資料3-2になるが、その概要版が資料3-1ということで、資料を用意させていただいている。」

苫米地委員：「概要で「概ね」という表現でいいのかと思う。」

成田委員：「資料3-1、1ページ目に1～4までの〈評価項目〉があるが、住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上については良好、業務の運営の改善は良好、財務内容の改善は良好、その他の業務運営については不十分というような書き方ということを行っているのではないか。」

事務局：「苫米地委員が言っているのは、資料3-1、1ページ目の(2)項目別意見のところにならっている、その他の業務評価については、こういうことから評価をⅡにしたと具体的に書いてある。これが、パッと見た人も分かるように全体意見にもそういう要素を入れる方が良いのではという意見だと考える。今回は修正するというのではなく、次年度以降こういう意見を作るに当たって、どのようにするのが最も見た人に分かりやすいのかということをご参考させていただくということによろしいか。」

苫米地委員：「資料 3-2 の 3、4 ページに、それぞれの項目についての実績と 31 年度の目標値が書かれてあるが、ざっと見た時に、目標値の根拠が何なのか分からなかった。例えば、3 ページでは実績値よりも目標値が全部低い。その 3 年間の実績よりも低い目標値、根拠が何なのか。4 ページのお金に関すること、外部資金に関すること、これは実績値よりも目標値が大きくなっている。この辺の根拠は、どういう根拠で目標値を決めたのか。」

事務局：「この目標値については、第 2 期中期目標を定めるときに、道総研が中期計画を定め、その中でこの目標値を定めている。そして、この中期計画で目標値を定めるに当たっては、第 1 期中期目標の達成状況や指標に関しての実績、今後の道総研の見通しなどを勘案して定めているところである。目標値を大幅に上回っているものもあれば、3 ページのように目標値を下回った実績になったものもある。今後、この評価結果を受けて、次期第 3 期の中期目標、中期計画の数値目標のあり方を検討し、その中で妥当性等を検証することになっていく。」

苫米地委員：「この目標値として表に書かれているものは、中期目標策定時の目標値なのか。」

事務局：「中期目標を受けて、中期計画に掲載している目標値である。」

鈴木副委員長：「第 1 期の最終年の実績値は、これより低かったのか。」

事務局：「それぞれの目標値の当時の結果は、今、手元にデータがないので分からないので答えられない。」

鈴木副委員長：「おそらくそうだったと思う。実績は目標値よりも低かったので、第 2 期の目標はそれより高く設定した。そうしたら、初年度からクリアしてしまっただと。」

事務局：「実はその辺の議論は、部会の中でも出た。やはり数値目標の設定の仕方、簡単にクリアできるような目標がどうかということで、先程話があったとおり、次の中期計画を立てる時にどのような目標値を立てるかということについて、きちんとした根拠付けを持って立てるべきではないかという、同じ様な議論が出ていた。」

鈴木副委員長：「国立大の場合は数値目標を立てても、文科省からその数値目標は甘いと言われる。それで、全然評価されないということがある。」

苫米地委員：「事業計画が進捗していく中で、次年度の目標値は、私達の組織では見直す。一度決めたらそのままで行くのは、いかななものか。」

事務局：「少し奇異な感じではあるが、まず中期計画があって、そ

の中期計画に基づいて、年度計画を機械的に運用しなければならないという形で、今は運用しているのが実態。ただ、目標を達成してしまい、これを次の目標値として果たして適切なのか。これは、構造上の問題もどうかってことを検討して行く必要があり、また、目標値の設定の仕方自体も、今後の中期計画のところで議論していく必要がある。」

苫米地委員 : 「今のような時代だと、前年度の結果を見て、翌年度の目標を当初の計画通りにやっていいかどうか。普通、今の組織だと、どこでも見直すと思うのだが。これは意見である。了解した。」

成田委員 : 「組織手続き上は、どうなっているのか。」

鈴木副委員長 : 「やはり国立は見直せない。そんなに簡単ではない、見直せない。」

安藤委員長 : 「その代わり5年計画を立てるときに、厳しい目標を立てるようにと。」

鈴木副委員長 : 「その理由をしっかりと書かないと、評価されないというのはある。」

安藤委員長 : 「国立でも苫米地委員が言ったような、結果的に凄く業績が上がってあるときに目標値が上がったから、それに基づいて翌年もっと厳しくという修正をすることはあるか。」

鈴木副委員長 : 「そういうケースは稀で、とんでもない目標値を立てて困っている。そういう例の方が多い。」

事務局 : 「数値目標を5年後にその数値に達するという目標と、各年度に数値を決めていく目標があって、これから説明する年度計画の中にも出てくる。」

苫米地委員 : 「了解した。」

事務局 : 「他に何か、質問はないか。この道総研の中期目標の実績に関する意見の書類としての型式面、目標値の中身に意見があったが、意見についてはこの通りで進めていただきたいと思う。」

議題(5) 平成31年度北海道公立大学法人札幌医科大学年度計画について

・平成31年度北海道公立大学法人札幌医科大学年度計画について事務局から資料4に基づき説明。

・出席委員から次のとおり質問あり。

玉腰委員 : 「年度計画自体はいいのだが、できれば札幌医大にお願いしたい事項がある。この資料を見ると、地域医療を支える公的医療機関への医師の派遣があって、医療・保健・福祉に関するものでは、地域の取組を支援するというものがあるが、道の保健所で保健所長が欠員の状態で運営されている。そこ

の部分、もちろん他の大学なのだが、特に道が設置した札幌医大には、きちんと健康・医療・福祉その辺りがきちんと回るような支援をお願いしたい。実際、京都府立医科大の保健所長の派遣、和歌山県立医科大でも和歌山県の保健所に派遣を実際行っていると伺っている。今後、札幌医科大学でもそういうことをご検討いただいて、健康・医療・保健福祉がきちんと回るようなことをご検討願う。」

事務局 : 「北海道の場合、保健所長は道職員で、医師が道職員になって経験を積まれて保健所長になっていることが多い。ここでは回答することはできないが、その辺も含め、今いただいた意見が反映できるように努力したい。」

玉腰委員 : 「他のところでどのようなやり方で回しているのかも含めて調べていただくことが必要かと思う。」

成田委員 : 「全般的に数値目標が書かれていて、非常に具体的でよろしいが、その数値目標が、その根拠、妥当なのか分からない。昨年と同程度の数値なのか。昨年度よりも5%ぐらいアップすることを目標にした数値なのか、この資料では一切分からない。例えば、昨年はどうだったのか括弧書きするという風には、できないのか。例えば、紹介件数やダヴィンチの術数であるとか、具体的に書いてあり素晴らしいと思うが、なぜこの数字なのかというところを明確にすることはできないのか。」

事務局 : 「今回の計画については、前回16項目だったところ、全てのところに目標を設定するというので、数値にできるところ、例えば医師派遣数等々については、派遣可能な人数には限りがあるので、派遣対象となる様な後期研修医をどう増やすかということを含めて、6年間の計画を出している等々、それぞれ医大で研究した中身や分析した中身を盛り込んでいる。バックボーンになるものはあるが、今のところこの中には入れていないということを指摘されていると思うので、どういう形で盛り込むかを含め札幌医大と協議をして参りたいので、ご理解いただきたい。」

鈴木副委員長 : 「この数値目標の後ろに括弧で平成30年度実績を書くことはできないか。」

事務局 : 「例えば、医師派遣数等々については、これは派遣できる医師を、医大で養成をする数を増やす、6年後でなければできないというのはあるが、それ以外のものは、頑張れば翌年度に可能なもので、翌年度出来たものに関しては、先程意見のあったとおりにローリングするのか、或いは、その目標を達成したら別の指標にするのか。そういったことを今後議論し

たいと考えている。

成田委員 : 「必ず昨年度の数値と、比較できることとできないことがあるのは、おっしゃるとおり。8割方昨年度の実績はこうで、今年はこうしたいとできることばかりではないかというように感じた。是非検討をお願いしたい。」

・他に委員からの意見、質問等なし。

議事(6) 平成31年度地方独立行政法人北海道立総合研究機構年度計画について

・平成31年度地方独立行政法人北海道立総合研究機構年度計画について、事務局から資料5-1、5-2に基づき説明。

・出席委員から次のとおり質問あり。

山本委員 : 「この計画の中には盛り込まれていないが、調べたところ、道総研で子育て支援と女性活躍のためのアクションプランを作っている。しかし、その記載が全くない。実際には人事の改善なのかもしれないが、職員の意欲等の向上に何か記載すべきではないか。職員数における女性の割合が13%で少ないということ、女性管理職が5人とかなり少ない人数になっている。管理職における女性の割合が、2.6%という風になっている。折角アクションプランを策定しているので、この計画に盛り込み、数値目標を立てて改善する。女性の割合を何%にしたい、管理職の割合を何%にしたいという記載があると良いという風に思っているので、意見とさせていただく。」

事務局 : 「道総研としては既に方針を定めているが、年度計画に載っていないという意見。基本的にそういった女性職員の話は、中期計画等に盛り込めないものかどうか。それをこの作業の中で検討させていただきたい。それに盛り込むこととなれば、年度計画にも反映されるということになる。それはまた作業の中で検討させていただきたい。」

鈴木副委員長 : 「初歩的な質問になるが、年度計画(案)ではないのか。」

安藤委員長 : 「年度計画は、この評価委員会では報告になる。」

鈴木副委員長 : 「年度計画は報告事項であって、議題ではないのか。」

安藤委員長 : 「年度計画をこの評価委員会で決定するわけではなく、基本的には札医大、道総研で作った計画を委員会で報告する。先程の札医大や道総研の年度計画について、こうした方がいいのではないかと出てきて当然。手続き上では、例えばこれから部会がそれぞれの組織について、30年度の実績評価をしていく中で、次の計画を立てることを念頭にそういう視点を、今後、実績評価をするに当たっては、その実績の元になる計画があって実績があってそこにそういう視点が欠けているのではないかと、各部会が評価をしていく時にその組織に意見を

述べることで次計画に反映される形式を取ることになっており、委員会で修正することは、手続き上できないという形である。

鈴木副委員長：「評価委員会が年度計画を立てるわけではなく、年度計画は、あくまでも道総研や札医大を立てるということか。」

安藤委員長：「ただ、評価委員会では評価はするので、評価の対象はやはり年度計画があって、その実績があつての評価なので、年度計画が全く無関係で良いのかといえそうはならないはずだが、実績評価をしていく中で、こういうことも計画の視点に入れるべきだと言っていくことで、計画に反映して貰う形を取らざるを得ないのではないかと考える。」

鈴木副委員長：「次年度以降の、計画の立て方に対する要望の様な感じか」。

安藤委員長：「今の山本委員の話も、先程の札医大の数値目標を立ててはいるが、もっと前年度との比較が分かるようにということも含め、ごもっともという意見だが、それを事務局も留意して、30年度の評価をするときに、視点を反映させて来年度の参考にさせていただければと思う。」

議事(7) 平成31年度北海道地方独立行政法人評価委員会審議スケジュールについて

- ・平成31年度北海道地方独立行政法人評価委員会審議スケジュールについて、資料6に基づき事務局から説明。
- ・出席委員からの意見、質問等なし。

閉会